

詳報 第3回建設

ランナーフォーラム

⑨

温暖化対策など環境問題に対する関心や危機意識が国際的に高まっている。

また、新興国の発展や原油高騰によって限られた資源の有効活用が懸案となる中、環境ビジネスに対する期待が膨らむ。複数自治体もまたがる規制の網の中、ビジネスモデルの構築に向けて企業の模索が続いている。

■コンプライアンスを徹底

佐々重土木(宮城県登米市)は、2005年、塩ビ管などプラスチック類のリサイクル事業へ参入した。「循環型社会の実現と地域社会への貢献

●環境ビジネス分科会 I

を目指した」と、同社の佐々木秀敏専務は目標を述べた。

■身近な地域で再利用

当初は廃棄物の収集に苦労した。しかし、排出事業者の声を傾け、提案と対話を徹底することで徐々に信頼関係が生まれ、事業は軌道に乗った。

■現場の安全向上

多く、外観から材質を判別できないものが少なくない。従業員教育の徹底が欠かせない。CSR経営の確立やコンプライアンスの徹底順守にも力を入れてい

を指した」と、同社の佐々木秀敏専務は目標を述べた。

■身近な地域で再利用

当初は廃棄物の収集に苦労した。しかし、排出事業者の声を傾け、提案と対話を徹底することで徐々に信頼関係が生まれ、事業は軌道に乗った。

■現場の安全向上

多く、外観から材質を判別できないものが少なくない。従業員教育の徹底が欠かせない。CSR経営の確立やコンプライアンスの徹底順守にも力を入れてい

ネットワークを立ち上げた。

■現場の安全向上

現場の安全性を高めるため、アスベスト計測機器の開発に取り組んだ。従来の最高峰・大山の火山灰土を使ったパネル型屋上緑化基

■火山灰土で温暖化対策

現場の安全性を高めるため、アスベスト計測機器の開発に取り組んだ。従来の最高峰・大山の火山灰土を使ったパネル型屋上緑化基盤材(大山グリーンテフラ)を開発した。

なFNMME(ファイバー・ネットワーク・モニター)を開発した。

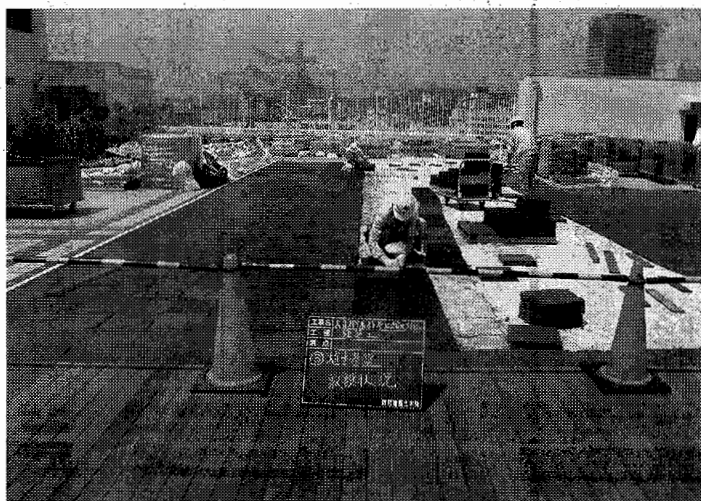
■火山灰土で温暖化対策

現場の安全性を高めるため、アスベスト計測機器の開発に取り組んだ。従来の最高峰・大山の火山灰土を使ったパネル型屋上緑化基盤材(大山グリーンテフラ)を開発した。

■火山灰土で温暖化対策

現場の安全性を高めるため、アスベスト計測機器の開発に取り組んだ。従来の最高峰・大山の火山灰土を使ったパネル型屋上緑化基盤材(大山グリーンテフラ)を開発した。

地元の資源の活用が鍵



大山グリーンテフラの施工状況(ジーアイシー)

テフラは、ギリシャ語で「活用した」の意。軽石を含み、小型・軽量で、段ボールも使われた。「地域資源を活用した製品を全国に広め、地球温暖化防止に役立てたい」と桜井博幸社長。

アドバイザーの野田勝・国土交通省建設副産物企画官は、「原材料費が上がり、今まで採算が合わなかったものがビジネスになる可能性が出てきた。一方で、「コンプライアンスは、環境ビジネスにかかわる重要なキーワード。いいかげんであれば環境ビジネスは成り立たない」と述べた。(日刊建設工業新聞 梅村浩卓) ※毎週水・金曜日に掲載します

日本には建設業が必要です